

血業 帯事 ク い バン さ

東南アジアへ展開

STEMセル 研究所 協業・M&Aを検討

さい帯血バンク事業のSTEMセル研究所は、東南アジアへのアプローチを進める。国内さい帯血バンク市場のシェアのほとんどを握るなか、同事業の伸展が遅れている東南アジア市場に着目。さ

らなる発展の軸として3～5年以内に海外への展開を狙う。先行するシンガポールのコードライフとは協業のほか、M&A（合併・買収）も視野に入れた検討を行う。STEMセル研究所は、

今年6月東証マザーズに新規上場したばかり。さい帯血を利用した治療の進展によりバンクの需要が続伸、安定した経営を続けている。さらなる成長のため、バンク事業の海外展開を進めていく。

もともと、さい帯血バンクは欧米で発展しており、米国では二十数社による業界が確立されている。一方、進出が遅れているのが東南アジアだ。シンガポール市場に上場しているコードライフが、シンガポール、香港、マレーシア、インド、インドネシア、フィリピンに保管施設を保有するものの、「大部分は手つかず」（清水崇文社長）だと

し、参入のチャンスがあるとする。

一方で、「海外展開は単独では難しい」（同）ともしており、協業もしくはM&Aといった手法を検討しながら、当面は足がかりを探す。同社は5年後に時価総額1000億円の目標を掲げるが、そのうち250億円を海外展開や細胞医薬原料などの新規事業で埋める方針。